

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	近隣商業拠点整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	横山吉治			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	北初富駅周辺の整備について、引き続き関係機関との協議を行い、整備方針を決定する。また、整備に必要な用地の取得に向けて関係地権者との交渉を行う。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	北初富駅前広場の整備に関し、関係機関との協議を継続し、整備方針を決定する。また、駅前広場に係る測量及び設計の実施や用地の取得に向けた関係地権者との交渉を継続する。
②①に基づく取り組み結果	北初富駅前広場の整備の基礎資料となる北初富駅前広場検討設計等を実施し、関係機関と協議を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	北初富駅周辺	意図(対象をどうするのか)	新京成線連続立体交差事業に合わせた駅前広場を整備する
②事務事業の概要	近隣商業拠点の一つである北初富駅周辺地区において、市民の日常生活に身近な商業等のサービス機能の充実を目指し、駅前広場等の整備に向け事業を推進している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業による高架運行が開始となり、事業完了を見据えた北初富駅前広場整備事業を推進していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	北初富駅前広場検討設計委託等を実施した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i	事業着手箇所数	1	1	1	箇所 業務取得
	ii	鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合		56.3		% 市民意識調査
	iii					
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	0	1,958	金額(千円)	内容	3,600	
国支出金(千円)			990	北初富駅前広場検討設計委託		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	0	1,958			3,600	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	北初富駅前広場の整備に向けて、関係機関との協議や関係地権者との交渉を引き続き行い、検討をしていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	北初富駅前広場の整備について、新京成線連続立体交差事業による高架運行が開始されたことから、整備に向け更なる推進が必要となるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	北初富駅前広場における検討設計	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	北初富駅前広場検討設計等を実施した。	1,000	1,958	当初	1,000	H30からの繰越	0
				H30⇒R1繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	1,958
				流用・充当	958		
④未完了・非着手の理由		令和2年度への繰越額(単位:千円)				0	

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市軸形成促進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	2	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市計画課			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	横山吉治			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	国の交付金を活用し、事業を推進する。なお、推進にあたっては、地権者の協力と、関係機関との調整が必要である。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	国の交付金を活用し、事業を推進する。なお、推進にあたっては、地権者の協力と、関係機関との調整が必要である。
②①に基づく取り組み結果	地権者の協力を得て、国の交付金を活用し、事業用地を取得した。また、関係機関との調整を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	初富駅周辺地区整備事業	意図(対象をどうするのか)	初富駅へのアクセスルートと駅前広場の整備を行う。
②事務事業の概要	都市軸の一翼を担う初富駅周辺地区において、都市基盤整備の必要性を明らかにし、計画的な市街地の形成を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業による高架運行が開始となり、安心して乗降できるような駅前広場の整備を促進する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	国の交付金を活用し、事業用地を取得した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	用地取得面積(初富)	0	107	106	m <sup>2</sup>	業務取得
	ii	鎌ヶ谷市を住みよいと答えた市民割合	-	56.3	-	%	市民意識調査
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	49,518	37,543	金額(千円)	内容		32,612	
国支出金(千円)	21,980	13,694	14,368	初富駅前広場整備事業用地購入費		12,705	
県支出金(千円)	0	0	21,571	物件補償		0	
市債その他(千円)	23,100	20,200				14,600	
一般財源(千円)	4,438	3,649				5,307	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	初富駅周辺整備事業は、用地の確保や建物移転等が伴うため、関係住民の理解と関係機関との調整が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	初富駅前広場等の整備は、新京成線連続立体交差事業の事業効果を高めるための関連事業として、また、市の都市基盤としての整備、通学路の安全性を高める側面から推進する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	初富駅周辺地区整備事業における用地取得	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	事業用地を取得	39,260	39,260	当初	39,260	H30からの繰越	0
				H30⇒R1繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	37,543
				流用・充当	0		
④未完了・非着手の理由		令和2年度への繰越額(単位:千円)				0	

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画基本図改訂事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	担当課室	都市政策室			
施策	313質の高い既成市街地の整備	担当課室長	仲田 政樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和2年度に取り組む改革・改善内容	最新の都市計画基本図に改定を行ったが、今後予定される都市計画基礎調査と併せた改訂など、改訂時期を検証する。
②①に基づく取り組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、事業者	意図(対象をどうするのか)	都市計画情報等を容易に閲覧・入手が可能な状態にする
②事務事業の概要	令和2年度策定予定の市総合基本計画、その後に策定される都市計画区域の整備、開発及び保全の方針、都市計画マスタープランの基礎となる都市計画基本図(白図)を委託により最新にする。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	現在の都市計画図に表示されている基本図情報は、平成20年当時のものであり、現況と基本図の乖離が生じている。基本図を最新にすることにより、都市計画に対する信頼性を高め、今後の都市計画の円滑性・実効性を増すことが期待される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	鎌ヶ谷市都市計画基本図改訂委託の実施、完了により、都市計画基本図を最新のものとし、市業務における利用や外部への販売を開始した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	都市計画基本図改訂			1事業	業務実績
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	0	9,240	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)	0	0	9,240	鎌ヶ谷市都市計画基本図改訂委託	0	
県支出金(千円)	0	0			0	
市債その他(千円)	0	0			0	
一般財源(千円)	0	9,240			0	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今回の都市計画基本図の改訂は完了したが、今後も、5年毎の都市計画基礎調査の実施の際など、機会を捉えて改訂を行い、最新の状態とすることが望ましい。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	目的達成により終了の評価となるが、都市計画のための基本図であり、まちの大きな変化等が生じた際は改訂が必要となることから、市域の状況に注視する。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	都市計画基本図の改訂	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	都市計画基本図の改訂が完了	12,400	12,400	当初	9,240	H30からの繰越	0
				H30⇒R1繰越		0	
③達成状況	完了			補正		現年分	9,240
				流用・充当			
④未完了・非着手の理由		令和2年度への繰越額(単位:千円)		0			